

調布市立深大寺小学校

地域の中で育まれた
歴史と伝統ある小学校



石垣に守られた学舎





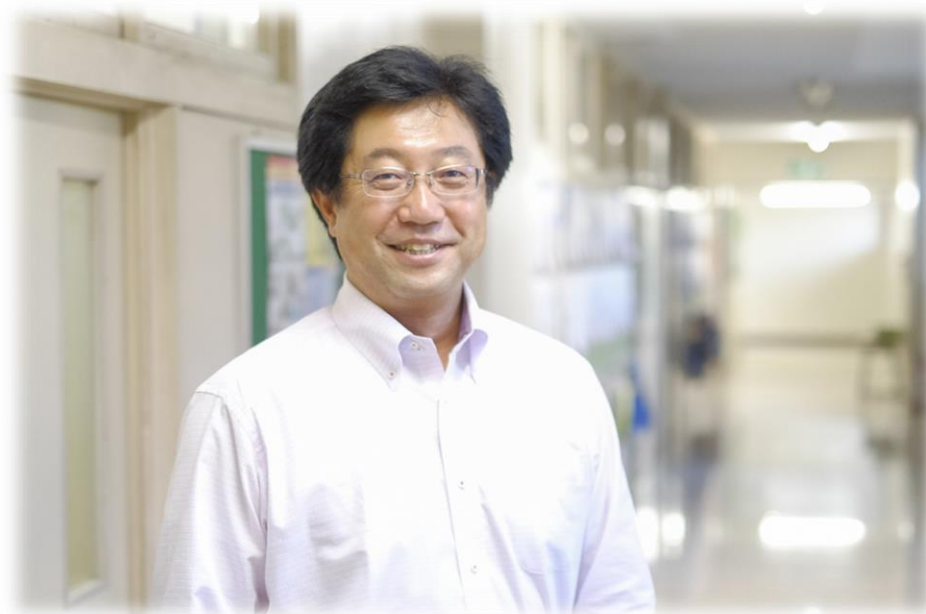


子供たちの元気な声は昔も今も

そしてこれからも



調布市立深大寺小学校経営ビジョン



校長 濱松章洋

Principal A. Hamamatsu

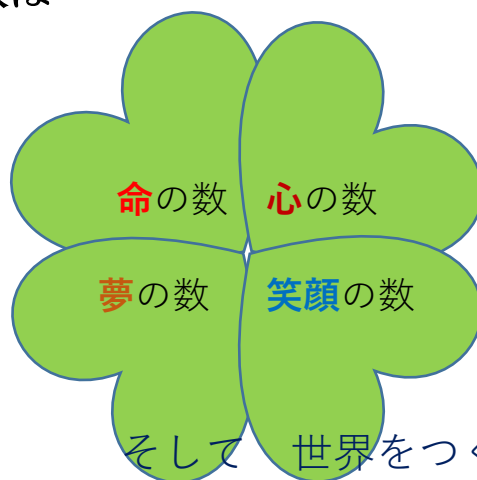
まず思う子供のこと

本校は令和5年度児童数509名でスタートしました。

目の前の子供は1／509ではなく1／1という意識で接していきます。

私たち深大寺小学校スタッフは509という数字を以下のように考えます。

子供の数は



子供の数は**命**の数

子供の数は社会と保護者の信託を受けてお預かりした**命**の数です

- ・ 確実かつ完全な食物アレルギー対応のために真剣な研修と間違いのない日々のチェックを行います
- ・ けがや事故の未然防止のために日頃から私たちの危機意識を高く保ち、落ち着いた学校生活を目指します

子供の数は**心**の数

子供の数は優しさにあふれた**心**の数です

- ・ お友達のこと,お家のこと,勉強のこと等子供の心を感じるために,子供の様子を常に学年担任団を中心にみんなで見ていきます。
- ・ 優しさの発露は満たされた心から生まれます。子供たちが認められ見守られていると実感できるよう私たちは常に子供の側に立って考えます。

子供の数は**夢**の数

子供の数は子供が思い描く**夢**の数です

- ・ なりたい自分,将来就きたい職業など,自己実現の力をつけていきます。
- ・ 自己有用感・自己効力感を満たすために係や当番で日々頑張っていることやちょっとした努力にも目を向けていきます。

子供の数は**笑顔**の数

子供の**笑顔**は私たち大人の原動力の数です

- ・ 笑顔には理由があります。楽しいとき,努力したとき,うまくいったとき,嬉しいとき……。なにか良いことがあったとき人は笑顔になります。子供が笑顔になると私たちも嬉しいです。

そして、**世界をつくる希望**の数

子供の数は無限の可能性を秘めた世界をつくっていく希望の数です

- ・ 子供は学校,保護者,地域の鎧（かすがい）です。それぞれの機能を補完し合い三位一体となったとき,子供たちは広い視野を身に着け,貢献意欲にたけ,寛容と忍耐,奉仕の精神に富ん人に育っていきます。これは単に知識量ではなく、能動的に働きかけられるようになってほしいと考えます。

子供たちに**幸せ**になってもらいたいと願うから

6年間で**感謝の気持ち**を育てます

「ありがとう」という言葉は「有難し」からきています。「有難し」は「有ることが難しい」つまり、「めったにないこと」を意味します。「ありがとう」がたくさん言える子供は、「めったにないこと」をたくさんしていただいているということです。しかし、人は身近な「めったにないこと」に気づきません。

「おはようのあいさつが言えること」「おいしいご飯が食べられること」

「明日に希望をもって眠ることができること」・・・などなど。

だから、深大寺小学校では、子供たちに、身近な「めったにない・有難いこと」に気づける子供にしていきます。たくさんの「ありがとう」が言える子供にしていきます。

だから、**感謝の気持ち**をもてる子供にしていきます。

感謝できる子供

求める教師像

授業中「静かにしなさい」と言う
場面になってしまった時、「ごめ
んね！先生の授業に工夫が足り
なかったね」と思う教師

昔は ではなく
昔も いい先生がいた
といわれる教師

一人一人のよさを生かす「学年担任制」への緩やかな移行

学年担任制とは

これまでは学級担任が一つの学級の全て請け負うかたちで1年間を過ごしていま
した。これからは教師の専門性を生かした「一部教科担任性」を取り入れるとともに、
朝の会と給食の時間を交代しながら行う「HR交換担任性」を取り入れていきます。
このふたつを合わせ学年担任で連携をはかることを学年担任制とっています。

複数の目で子供たちのよさを見ていきます

子供は複数の教員から認められほめられます

複数の目でいじめや問題行動の未然防止、早期発見に努めます

保護者の方は話しやすい教員に相談していただいて結構です

より質の高い授業・ためになる授業を求めています

学年担任制の メリット

一部教科担任制

- ・教師の専門性をこれまでより生かすことができるため、子供たちは楽しい授業わかりやすい授業を受けることができる。
- ・教師にとっては教材研究を絞ることが出来る分、子供たちと向き合う時間が生まれる。
- ・教師は同じ授業を 3 回繰り返すため指導の工夫を加えていくことができ、授業力の向上につながる。

HR 交換担任性

- ・独りよがりになりがちな学級指導，給食指導を修正することが可能となる。
- ・子供の姿を通して自分の指導に取り入れるべきポイントを体感し，改善向上を図ることが可能となる。
- ・担任に極度に依存していたアレルギー対応や特別支援対応など，担任不在であっても同等の対応をすることができるようになる。
- ・学年全部の子供たちの顔と名前、性格や個性について実感を伴って把握できるため、生活指導上の問題など担任と同じレベルで対応することができる。
- ・子供にとって三人の先生と顔見知りになるので、相談しやすい対象が増える。
- ・保護者の方も、学年担任の中の話しやすい教員に相談できる。
- ・複数の目があることで子供たちの多面的なよさの見取りが可能になる。
- ・学習規律の乱れの未然防止,問題の早期発見早期対応が可能となる。

最後に

今、小学校教育は様々な取り組みをしています。

英語の授業が入ってきました ICT教育が始まっています

各教科新学習指導要領に対応していきます

行事も見直しが求められています 他にも様々な対応があります



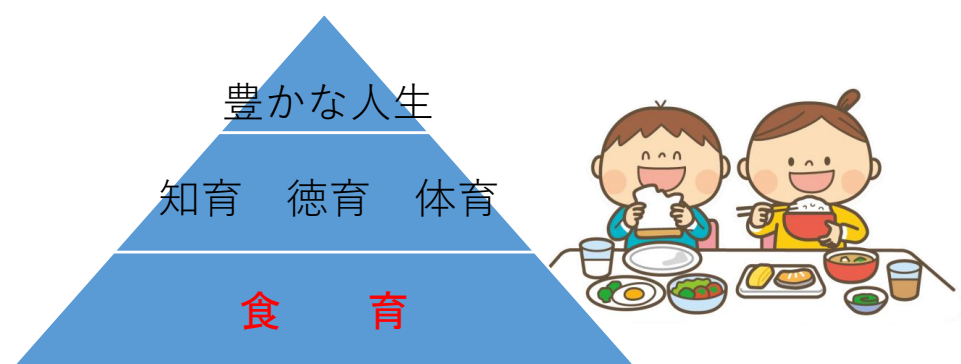
教師は学校にあって、研究授業等を通して研鑽を積み学校に入ってくる課題に対応しています。

本校は**食育**にも力を入れていきます

食育基本法前文より（一部抜粋）

食育を生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる食を推進することが求められている。

子供たちに対する食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたる健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるものである。



子供の教育・・・を行う者にあっては、教育・・・における食育の重要性を十分自覚し、積極的に子供の食育の推進に関する活動に取り組むこととなるよう、行われなければならない（食育基本法第5条）

つまり 食育の充実が知・徳・体の伸張を支えているので小学校では積極的に食育を推進することとされているのです

給食は子供たちの健やかな成長と生涯にわたる健康の基礎となる**食育の授業時間**です

